

2024年11月26日

各位

Chordia Therapeutics 株式会社
<https://www.chorditherapeutics.com>**第47回日本分子生物学会におけるCDK12阻害薬に関連する研究結果の発表**

Chordia Therapeutics 株式会社（本社：神奈川県藤沢市、代表取締役：三宅洋）は、2024年11月27日（水）～29日（金）に開催される第47回日本分子生物学会のミニシンポジウムおよびポスターセッションにおいて、当社パイプラインであるCDK12阻害薬に関連する研究成果について発表いたします。

今回の発表は、CDK12阻害薬が既知の「転写」に加え新たに「RNA輸送」を介してRNA制御ストレスを標的としていること、そして「RNA輸送」がCDK12阻害薬の抗がん作用の程度に影響を与えうること、についての報告です。これらの知見は将来的にCDK12阻害薬の効果を予測するバイオマーカーの特定に繋がるものと期待されます。

詳細については、学会ウェブサイト（<https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/mbsj2024>）および本発表に関する論文報告（*Biochemical and Biophysical Research Communications* 735 (2024): 150608.）をご参照ください。

発表内容

抄録番号	2P-174（ポスター発表） / 2MS-08-04（口頭発表）
演題名	DNA損傷応答に関与するCDK12とNXF1の相互作用
発表場所	福岡国際会議場マリンメッセ福岡
日時	2024年11月28日（木）12:55～14:55（ポスター発表） / 15:10～16:30（口頭発表）

CDK12阻害薬（CTX-439）について

CTX-439は、mRNAの転写を調節する主要な因子であるCDK12に対して選択的な経口型のファーストインクラスの低分子阻害薬です。現在は、臨床試験開始に必要な安全性試験や原薬製造が完了し、次のフェーズに向けた準備を進めているところです。

Chordia Therapeutics 株式会社について

当社は、臨床開発品を擁するがん領域専門の研究開発型バイオベンチャーとして、神奈川県藤沢市を本社として活動しています。私たちの主要なパイプラインであるCLK阻害薬 rogocekib

(CTX-712) は、米国での第 1/2 相試験を進行中です。rogocekib は、がんの脆弱性をターゲットにしており、有望な治療薬としての可能性が期待されています。また、当社は、リードパイプラインの rogocekib、小野薬品工業に導出された MALT1 阻害薬 CTX-177 (ONO-7018) に加え、特定のがん変異に対する CDK12 阻害薬 CTX-439、GCN2 阻害薬など、複数のパイプラインの研究開発に取り組んでいます。

詳細は、当社ウェブサイト (<https://www.chorditherapeutics.com/ja/index.html>) をご覧ください。

本リリースに関するお問い合わせ先
Chordia Therapeutics 株式会社
IR 担当 吉良
ir@chorditherapeutics.com